

## ご寄贈頂いたミニバスをタイの子宮頸がん教育活動に投入

タイの日野自動車販売様と日野自動車製造様より、PHJがタイで行っている子宮頸がん教育活動を拡大するためにモバイル・ヘルス・クリニックとして使えるミニバス1台をご寄贈いただきました。

タイでは婦人科がん、特に子宮頸がんで年間3,000人の女性が死亡し、女性（15～44才）の死因の第一位となっています。子宮頸がんによる死亡率を下げるための最も効率良い方法は、早期発見そして早期治療です。しかし、タイでは、女性の子宮頸がんに関する知識の不足とともに、早期発見に必要な診断を行うシステム、要治療者のフォローアップシステムが不十分のため、女性住民の多くが子宮頸がんの早期発見・早期治療の機会を逸しています。



4月30日のミニバス寄贈式

PHJは、タイ中部のスパンブリ県、チャイヤブーン県で2003年から3年間外務省の支援を受け、2006年から2年間武田薬品工業様の支援をうけて子宮頸がん予防活動をしました。引き続き

武田薬品様の支援のもと、北部チェンマイ県のメリン郡、メタン郡で子宮頸がん検査（＝パップ検査）受診率向上と細胞診とフォローアップシステム改善を目指し、2007年11月より3年間「子宮頸がん教育」を実施し、対象女性の19,805名がパ



5月25日のミニバスを使った子宮頸がん教育活動

ップ検査を受け、看護師/保健スタッフ115名がパップ検査の知識と技術を身に付け、ヘルスボランティア1,038名も研修を受けました。成果指標となる検査率は、事業開始前10%でしたが2010年4月時点で58%まで上がり、当初計画した目標の検査率50%を達成しました。

ご寄贈頂いたミニバスは、さっそく保健センターを巡回し、教育を実施しています。ボディーの色は、子宮頸がん予防のリボンの色、ピンクです。村々を巡回するミニバスは、子供たちの人気者となっています。この「子宮頸がん教育活動」は、来年度からよりニーズの高い山間部の農村を対象を広げ、このバスも山道を巡回する予定です。

（石関）

## 巻頭言 身近で質の高い医療をより多くの人々に提供すること



PHJ理事  
藤森 義明

日本 GE 株式会社  
代表取締役社長兼 CEO

医療は今、転換期にあります。医療の置かれている環境は、国によって異なりますが、どの政府にとっても、コストを抑えつつ、より多くの人々に質の高い医療を提供するために何をすべきかが、大きな課題となっています。医療機関は慢性疾患患者の急増、人口の高齢化、医療コストの高騰、医療アクセスなどをはじめとする様々な問題に日々直面し、医療の現場におけるイノベーションへのニーズは高まるばかりです。

グローバル化が進み、世界各国が相互に関連し合うようになった現在、病気に対してより一貫した対策を推進すると同時に高い費用対効率を実現する、幅広い技術やサービスが求められるようになりました。いいかえれば、これまでのように、主に先進国の医療機関に向けた高品質・高価格の機器を新興国に展開するのではなく、よりシンプルで使いやすい低価格製品を、より市場に近いと

ころで開発しなければなりません。

「世界が直面する最も困難な課題を解決に貢献する」ことを企業のミッションに掲げるGEは、身近で質の高い医療をより多くの人々に提供することを目指して、2009年より「ヘルシーマジネーション」戦略を立ち上げました。「ヘルシーマジネーション」に経営資源を投入し、イノベーションを通じて世界中の誰もが健康な生活を送ることのできる未来の実現を目指しています。

ピープルズ・ホープ・ジャパンが活動されている東南アジアは、今後経済成長が見込まれる地域でありながら、乳児と母体管理、公衆衛生・水の管理、生命にかかわる病気を未然に防ぐ検診制度の未整備など、医療環境の充実には未だに様々な課題を抱えています。GEも「ヘルシーマジネーション」を通じて、東南アジアにおける医療の活性化、医療アクセスの向上を推進する一助となるべく、日々邁進しています。

ピープルズ・ホープ・ジャパンがこれまで13年間に渡って展開されてきた活動をさらに発展させ、理事としてできる限りのご支援を続けてまいりたいと存じます。ピープルズ・ホープ・ジャパンのいっそうのご発展をお祈り申し上げます。

## インドネシア Poskesdes (助産診療センター) 寄贈式に参加して

北村 富士雄 (アステラス製薬 前執行役員総務部長)



寄贈式典でインドネシア語で挨拶する筆者

6月の株主総会でアステラス製薬を退任した私にとってインドネシア寄贈式参加は、会社人生最後の重要な任務であり、生涯忘れることの出来ない大きなインパクトをもたらしました。観光や研修旅行では体験出来ない貴重な旅となりました。事前に聞いていたとおり家屋に隣接するように流れている川しかも赤土の泥のような川が、村民の生活用水であることをこの目でしかと見てまいりました。人間の発祥とも謂われる4大文明の傍には、すべて大きな川があったことを思い起こしました。

さて、ジャカルタから北西に車で3時間、でこぼこ道を揺られながら到着したセラン県ポンタンレゴン村での寄贈式は、想像以上に私達を歓待してくれる精一杯の真心が、しっかりと伝わってくる感動あるものでした。お祈りと歓迎の歌から始まったセレモニーや村の人達の優しい眼差しは、何時までも忘れることができません。多数の人達と握手を交わし

たり、写真に納まったり、イエローライスでの昼食会等、思い出は尽きません。民家とは対照的な瀟洒な建物であり青い屋根と白い壁の助産診療センターが、妊産婦や村の医療に貢献できれば、この上なき喜びであり、国連ミレニアム開発目標に合致した企業レベルでの社会貢献になるものと確信しております。セラン県14の村のうち4つの村しかこのような施設がございません。残りの10村ではどの様に助産診療が行われているのか大変気がかりで胸が痛みます。PHJの冠事業推進の重要性を肌を感じる毎日です。

最後に事務局の皆様は基より、建設準備から土地の確保等々、現地で東奔西走して頂いた伊藤所長はじめ、同行して頂いた前代表の須見さんに格別の感謝を申し上げ報告文の終りと致します。PHJ皆さまの益々の御活躍をお祈り申し上げます。



寄贈された助産診療センター

สุวิมลรัตน์  
สาวเดिका  
こんにちは!

## タイ：大学の HIV/AIDS 教育強化——学生の交流の場を提供

PHJ タイは、HIV/AIDS に関するピア教育\*を多くの大学や高校と共同で行ってきました。なかでもチェンマイのパヤップ大学では、これまで110名の学生をピア教育リーダーとして養成し、すでに8,000人の学生に対してピア教育を実施しています。

そして2010年3月。HIV/AIDS教育の強化に向け、PHJ タイはパヤップ大学構内の学生の交流の場「学生コーナー」の改装工事を支援しました。椅子やテーブルなどが設置され、コーナーが新しく生まれ変わったことで、リーダーである学生と一般の学生が交流をよりいっそう深めることができます。



2005年からピア教育リーダーとして活躍する同大学のクリッタファ・ウンタカテ君は「いままでピア教育リーダーと学生が話す機会があったのは教育を実施したそのとき

◀ 学生コーナーをリニューアル



リニューアルオープンのセレモニー

だけ。これからは授業が終わった後でも学生はここに立ち寄ってピア教育リーダーと毎日気軽に話すことができます。また、ピア教育リーダー自身もここを利用して教育計画を立てることができるので、リーダー育成にも役立ちます」とのこと。ピア教育リーダーと学生のコラボレーション強化で今後のピア教育にさらなる期待ができそうです。

(ジラナン)

\*学生自らが先生となって学生に教える教育システム

## カンボジア クメール伝統楽器で初のコンサート

病気になった時や子供を産む時に、保健センターには行かず、まず伝統的な薬草や治療方法に頼る村人がまだ大勢います。一方で、外から新しく入ってくる文化は圧倒的な影響力をもって若い世代を魅了し、継承されるべき伝統が忘れ去られていくという現実があります。

そんななか「音楽」をテーマに支援したい、というリシュモンジャパン（カルティエ）様からの願ってもないご提案があり、カンボジアの文化を象徴するクメール伝統楽器を寄贈いただくことになりました。2009年、ピンピアと呼ばれる打楽器や、マハオリと呼ばれる弦楽器のセットが、コンポントム州の7つの学校に届けられました。しかしそれまで、クメール伝統楽器を所有していた村は少なく、子供たちは伝統楽器に直接触れる機会がほとんどありませんでした。子供たちに伝統楽器のレッスンが必要だとわかったとき、カルティエ様からレッスン費用についても支援いただけることとなりました。



レッスンは始まって1年ばかり経った今年5月、子供たちが腕前を披露する機会が訪れました。コンポントム



州文化局主催の歌のコンテストの舞台上で2つの学校の子供たちが演奏の場をいただいたのです。晴れの舞台なので、衣装の製作もカンボジア事務所が支援しました。州文化局長はコンサートへの参加依頼を快諾し、こうおっしゃいました。「今の国力の弱いカンボジアでは、伝統文化を守るために特別な支援が必要だから、PHJの支援はありがたい」と。

音楽を通して、子供たちが自分たちの伝統文化に触れ、継承していくお手伝いができることは、喜ばしいことですし、村人たちからも大変感謝されています。

今回は、7つの学校の小さな演奏家たちが参加できるようなコンサートを開催したいと考えています。

(中田)

コンサートの模様は <http://www.ph-japan.org> から動画でご覧になれます。

## 個人が認定NPO法人に対して行った寄付控除額の変更

個人が認定NPO法人に対して支出した寄付金は、特定寄付金に該当します。2010年4月1日の「所得税法の一部を改正する法律」および「租税特別措置の適用状況の透明化に関する法律」の施行により、認定NPO法人制度・寄付税制が

一部変更しました。認定NPO法人や特定公益増進法人などへ合計して年間2,000円超を寄付すると所得税の寄付金控除対象となります。対象となるのは、平成22年(2010年)1月1日-12月31日の寄付金からです。

## PHJ 新スタッフ紹介



**南部 道子** 広告制作会社で商品のコピーを書いていた私が、ピープルズ・ホープ・ジャパンで働くきっかけになったのは去年の夏。縁あってパンフレットやホームページの文章作成のお手伝いをする事になり、NPOという分野に初めて足を踏み入れたのです。そのとき、広告の力を必要としているのはこういう所なのだ、と強く感じました。友人の多くが「NPOってそもそも何?」と聞いてくるほど、この分野まだまだ日本ではマイノリティです。広報として、支援者に対してだけでなく、PHJの存在を知らない多くの方にわかりやすく、親しみやすくコミュニケーションを図っていこうと思っています。



**武長 純子** 4月より海外事業グループに加わりました。公的補助金の申請作業など、PHJタイの活動を東京からサポートしています。2年前、PHJタイ事務所でインターンをしていた経験がありますが、今こうして東京事務所で働いてみると、また違った面を見ることができ、新鮮な毎日を送っています。今後、現地での活動を間近で見えてきた経験を活かし、現地事務所がスムーズに活動できるように支えていきたいと思っています。現場での活動をより身近に感じていただけるよう日本にいる支援者の皆様と密に関わってゆきたいです。

「食と健康」で広がる国際協力



北村 聡  
(味の素株式会社 CSR部)

弊社は、「食と健康、そして、いのちへ」をスローガンに1999年より開発途上国の栄養改善を支援する AIN プログラム(味の素「食と健康」国際協力ネットワーク)を開始しました。

2002年以降 PHJ へは3テーマについて5年間、助成をさせて頂きました。PHJの活動は、地域にしっかりと根を下ろし、地域のニーズを理解し、地域人材・固有のリソースを最大限に活かしながら事業を運営されています。5年前にインドネシアのプロジェクトサイトを訪問させていただいた時、ボランティア住民の方が自宅の小さな台所で栄養に優れた地域の食材を工夫しながら調理し、栄養

不良の子供に提供していました。その料理は本当に美味しく愛情のこもった味でした。また、栄養教育では、保健士さんやボランティアの方々が炎天下の中、民家を一軒一軒歩きながら熱心に説明していました。いずれも、簡単にできることではありません。

そして、これらを実現する為、事業は、必要な知識・情報、設備、教育をタイミングよく提供し、住民の皆さんが「自らの意志」で様々な形で地域に関わりを持って活動を進められるよう計画されていました。10年、20年先を見ながら地域の自立(サステナビリティ)を目指した活動が真摯に行われていることに深く感銘を受けました。

今後も、母子の健康を中心に活動を展開されている PHJ が、国内外の一人でも多くの方々に影響を与え、「食と健康」から国際協力の実現を願う弊社との連携の輪が広がることを希望いたします。

PHJチャリティカレンダー新企画スタート!

タイ・カンボジア・インドネシアといった子供たちの絵をふんだんに使った PHJ のチャリティカレンダーは毎年大好評です。多くの人に親しまれているこのカレンダーですが、作る側にも使う側にもより魅力的なものにするため、新しい企画をスタートさせています。題して「見て、読んで、楽しむ『アジアのおはなしカレンダー』」。海外だけでなく日本の子供たちも参加し、それぞれの国の「おとぎばなし」をテーマに絵を描いてもらうことになりました。カレンダーには各国で選びぬかれた絵と簡単な解説を掲載しますので、絵を見るだけでなく、その国に伝わるおはなしまでを楽しむことができます。このカレンダーに携わるさまざまな人



(2011 カレンダー表紙 イメージ)  
※実際のものとは若干異なる場合があります。

にとって異文化への関心を高めるきっかけとなることを願っています。

2011 チャリティカレンダーのお申し込みについては同封の案内状をご覧ください。

タイのエイズ教育のワークショップを開催しました

5月19日(水)、東京広尾の JICA 地球ひろばで【粘土で「性」を表現してみよ】というテーマでワークショップを開催し、定員を上回る31名の方に参加いただきました。来日中の PHJ タイ所長よりタイのエイズ教育活動の紹介を行った後、水を交換するゲームで HIV 感染の拡大を体感いただきました。その後メインイベントの「粘土で性を表現する」ワークショップを実施。参加者の方はお隣と会話しながら独創的な作品を次々と完成させ、性に対する個々のイメー

ジの違いを目にすることができました。タイ所長への質問も絶えることなく、参加者のエイズ教育への意識の高さがうかがえるイベントでした。

